

## (3) 協 議

「神奈川県としてめざす小中一貫教育校の在り方」について  
 (ア) 神奈川県の小中一貫教育の定義

## 神奈川県の「小中一貫教育」の定義(案)

小中学校が、同じ教育目標のもと、めざす子ども像を共有し、義務教育 9 年間を見通した教育課程を編成し、それに基づき行う系統的な教育

「小中学校が、」

：小・中学校に関わる全ての人（教職員、地域・保護者）が、

「同じ教育目標のもと、めざす子ども像を共有し、」

：小・中学校を一つの学校とした一体感のもとに、地域の実態に応じた教育目標の実現をめざし、子どもたちを育む方向性を全ての人共有する

「義務教育 9 年間を見通した教育課程を編成し、」

：学習指導要領は、校種間の円滑な接続・連携の観点重視されており、この趣旨を十分に踏まえながら義務教育 9 年間を見通した教育内容を適切な時数で実施する教育課程を編成する

「それに基づき行う系統的な教育」

：学校生活の中で指導に当たる教職員は義務教育 9 年間の教育活動を理解し、小学校 1 年生から中学校 3 年生までの全ての児童・生徒がそれぞれの発達段階に応じた系統的な指導を受けることができる教育

## 検討の視点

「なぜ神奈川において小中一貫教育校を行うのか」

小中連携・一貫教育に係る県内の状況

：県内の多くの小・中学校において、小学校と中学校の円滑な接続をめざした取組が進められている。

多様なニーズや特色を持つ子どもたちの「9 年間の学びと育ち」を支えるために、小中一貫教育という「手立て」を用いていく。

小中一貫教育という考え方を打ち出すことで、これまで行われてきた「連携」において得られてきた成果よりも高い効果を生み出すとともに、学校教育の質を高める。

「『小中連携』と『小中一貫』の違いは何か」

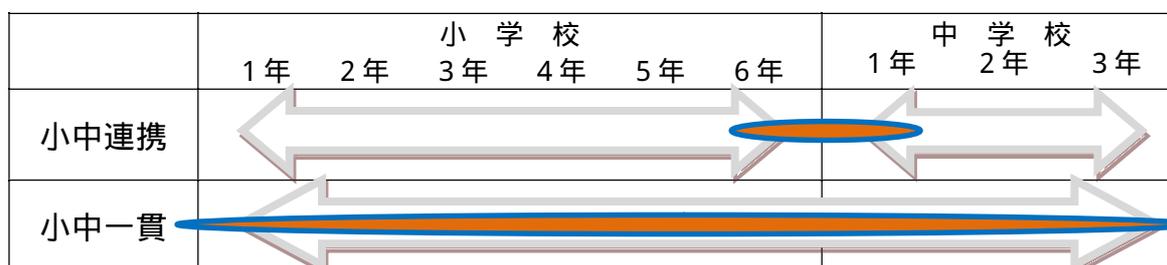
【文科省における現段階での定義】

小中連携：小・中学校が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、  
小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育

小中一貫教育：小中連携教育のうち、小・中学校が目指す子供像を共有し、  
9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育

神奈川県内では、地区によっては、異年齢集団での交流等が行われているが、主に接続する小学校6年生を対象に実施されているのが現状。

神奈川県として推進していく「小中一貫教育」は、“9年間を見通した”や“日常的、継続的な関わり”という言葉がキーワードとなるのではないかと。



〔参考〕他地区における小中一貫教育の定義

【横浜市】

敷地や校舎を共有するなどの物理的な条件に関係なく、小中学校の教職員が情報交換や連携を行い、義務教育9年間の連続性を図った小中一貫カリキュラムに基づく教育活動を推進すること。

【東京都三鷹市】

既存の小・中学校を存続させた形で、児童・生徒は現在の小・中学校に在籍しながら、現行の6・3制のもとで、9年間の一貫カリキュラム（指導計画）をとおして、小・中学校間の強固な連携と交流を図ること。地域ぐるみで子どもたちの教育を支援する「コミュニティスクール」を積極的に推進すること

【岡山県姫路市】

小中共通の教育目標（各校の定める学校教育目標ではない）の設定

(1) キャリア教育の視点

9年間を見通した一貫した指導

(1) 地域資源の活用

(2) 姫路市小中一貫教育標準カリキュラムを活用した取組

(3) 「学力の向上」と「人間関係力の育成」を図るための9年間を貫く取組

小中教職員による協働実践

(1) 小中教職員の協働